

第 4 回少人数教育推進検討委員会（令和 3 年 1 月 1 2 日）の概要

議 事 I 報告書骨子項目案について

〈報告書作成の方向性〉

- 次の主な項目により報告書を作成する。
 - ・ 検討経過と内容
 - ・ 少人数教育の方向性（25 人学級の導入、アクティブクラス、効果検証の方針）
 - ・ 参考資料

議 事 II 少人数教育の導入にかかる効果検証の方針について

〈委員の主な意見〉

- 基本的に、事務局が示した方針案を元に具体的な検討を進めて良いと思う。
- 学力面からだけではなく、いわゆる非認知面からの効果検証も必要である。
- 単純に学力調査結果の数値だけに着目するのではなく、効果検証のねらいや目的に沿って行うよう留意すべきである。
- 調査の実施にあたっては、教員や児童の負担を十分に考慮し、実施規模、教科、時間等について検討することが必要である。
- 調査を実施するだけでなく、調査の結果を学校や児童にフィードバックすることも検討するべきである。
- 単年度ではなく、長期間にわたる検証が必要である。
- 効果検証を踏まえ、少人数教育の導入の意義や効果を広く示す方策を考える必要がある。

〈効果検証の方向性〉

- ◎ 以下について、具体的な検証方法・内容を事務局で検討し実施することについて了承。
 - 質問紙調査と学力調査の実施
 - ・ いわゆる非認知面と学力面から導入の効果を検証
 - ・ 25 人学級導入前と導入後の学級の状況を比較・分析
 - ・ 25 人学級導入後の児童の状況を経年で分析
 - 紙面での調査とともに専門家による行動観察の実施
 - ・ 専門家の知見を得ながらの分析
 - 学習環境・生活環境に関わる質問紙調査の実施